

press release:

Tsuyoshi Nagabuchi 6th Shiga Exhibition

12 年ぶり！ 最新作「希望」初公開

長渕剛が放つ“魂の筆”の集大成【第六回詩画展 希望】

2025 年 10 月 4 日(土)から笠間日動美術館で開催

拝啓

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

1998 年、銀座・日動画廊で開催した第一回詩画展「俺の太陽」から四半世紀余りが経ちました。この展覧会は 5 日間で延べ 2 万 7,000 人の来場者を記録、2000 年に開催の第二回詩画展「赤鬼」は 3 万人を動員し、銀座 5 丁目の同画廊から新橋駅まで連なる長い列は大きな話題となりました。その後、長渕氏の詩画展は、日本各地を巡回することになります。2013 年には、笠間日動美術館でも、第五回詩画展「殺気」を開催し、大作の「殺気」や「鯉のぼり」をはじめとする作品の迫力に、多くの来館者が魅了されました。

この度、長渕氏の「詩画展」開催を望む多くの声を受け、12年の歳月を経て当館で開催の運びとなりました。つきましては、以下に展覧会の詳細をご案内いたしますので、ご取材・ご紹介を賜りたくお願い申し上げます。

敬具

記

- 展覧会名 長渕剛 第六回詩画展 希望
- 会 期 2025 年 10 月 4 日(土)～12 月 14 日(日)
- 会 場 笠間日動美術館 企画展示館(茨城県笠間市笠間 978-4)
- 開催趣旨

「物を創り、表現する人間は、ひとくせもふたくせもある。しかし、最終的にその作品を人が観て癒やされ、感動し、眠っていた野生が目覚めなければ、いいものではないと考えている。」 第一回詩画展『俺の太陽』の画集に綴られた長渕の言葉だ。これは、長年、詩画に向き合ってきた長渕の、初期から一貫する信念でもあるだろう。内面から湧き出てくる一瞬の閃きを捉えて創作する長渕は、自分で何を描いたのか覚えていないこともあると言う。しかし、作品に存在する確かなメッセージは、大胆な描法と相まって、鑑賞者の心に強く訴えてくる。

12年ぶりの開催となる本展では、大作《鯉のぼり》をはじめ、初期から最新作の《希望》まで、約50点を展示する。「ロックに生きる」を地で行く長渕の魂が込められた詩画の数々を是非、ご覧いただきたい。

- 担当連絡先
 - 学芸部長 金澤 Email: kanazawa@nichido-garo.co.jp
東京都中央区銀座 5-3-16 日動画廊内／tel:03-3571-2553
 - 学 芸 員 鴻村 Email: komura@nichido-museum.or.jp
茨城県笠間市笠間 978-4 笠間日動美術館／tel:0296-72-2160

公益財団法人日動美術財団 笠間日動美術館

Kasama Nichido Museum of Art <https://www.nichido-museum.or.jp>

Tsuyoshi Nagabuchi 6th Shiga Exhibition: Hope

“Those who create and express things tend to be a little eccentric. But I believe a work isn’t truly good unless people ultimately see it and feel healed and moved, and have their dormant wildness awakened.” These are the words of Tsuyoshi Nagabuchi, inscribed in the art book for his first Shiga(poetry and art) exhibition, My Sun. This belief has likely been consistent throughout Nagabuchi’s long engagement with Shiga, and has been held since his early days.

This exhibition, the first in 12 years, displays around 50 pieces, including the large-scale work Koinobori and pieces from his early career to his latest work, Hope. We invite you to experience the many Shiga works imbued with Nagabuchi’s soul, a man who truly lives by ‘Rock music’ ‘



■ 作家紹介 長渕 剛 (Tsuyoshi Nagabuchi)

1956 年鹿児島県出身。1978 年にシングル「巡恋歌」で本格デビュー、翌年に 1st アルバム「風は南から」をリリース。1980 年には「順子」でチャート 1 位を獲得。その後も、1985 年に「勇次」、1987 年に「ろくなもんじゃねえ」、1988 年に「乾杯」「とんぼ」などヒット曲を連発。‘90 年代に入り、1991 年に「JAPAN」、1993 年に「Captain of the Ship」など革新的なアルバムをリリースすると同時に、1992 年 5 月 15 日、東京ドームで 1 人 vs 65,000 人という常識外れのライブを実現させた。2000 年代に入ってもその人気は全く衰えず、2003 年にリリースした「しあわせになろうよ」においてシングルの総売り上げ枚数が 1000 万枚を越

え、12枚のオリジナル・アルバムでオリコンチャート1位を獲得した。2011年代の東日本大震災では、いち早く復興支援ラジオを立ち上げ、自らの足で被災地を訪れるなど慈善活動でも注目された。2010年代以降も精力的に創作・ライブ活動を展開。2015年には富士山麓ふもとっばらで開催された「10万人オールナイト・ライブ 2015 in 富士山麓」を成功させ、国内音楽史に残る伝説のステージとして語り継がれている。1996年頃から詩画活動を開始。心の奥にある風景や叫びを表現した作品を次々に描き、アーティスト・長渕剛のもう一つの顔として注目される。1998年に東京・銀座の「日動画廊」で初の詩画展を開催し、2000年の第二回展は銀座、鹿児島、福岡を巡回し約5万人を動員。詩画展は、2013年(第五回展)まで日本各地で開催し、高い評価を受ける。音楽のみならず絵画、芸術のジャンルでも真摯に向き合い、魅力的な作品を次々に生み出す姿勢から若者たちを中心に多くの支持を集めている。

■ 出品作品のご紹介



第一回詩画展「俺の太陽」出品

《不動明王～怒りが悲しみに変わる時～》125×69cm



第二回詩画展「赤鬼」出品

《涙は君の大切な友達だから》53.5×37.5 cm



第三回詩画展「前略、人間様。」出品

《俺のかあちゃん》68×68cm



第四回詩画展「情熱」出品

《コーヒーサイフォン》56×90cm



第五回詩画展「殺気」出品 《鯉のぼり》 400×1000cm

■ 展覧会の詳細

展覧会名	長渕剛 第六回詩画展 希望
会 期	2025年10月4日(土)～12月14日(日)
会 場	笠間日動美術館 企画展示館(茨城県笠間市笠間978-4)
開館時間	午前9時30分より午後5時(入館受付は午後4時30分まで)、 12月2日(火)からは午前10時より午後4時30分(入館受付は午後4時まで)
休 館 日	毎週月曜日(ただし10月13日、11月3日、24日は開館し、翌日休館)
入 館 料	大人1,500円／65歳以上1,300円／大学・高校生1,000円／中学・小学生500円 20名以上の団体は200円割引／障害者手帳をお持ちの方、その同伴者1名は各半額割引 [春風萬里荘(北大路魯山人旧居)との割引] 当日の美術館チケットをお持ちの方は200円割引で入館できます(小学生は200円)。
主 催	公益財団法人 日動美術財団
特別協力	株式会社オフィスレン
後援予定	茨城県／茨城県教育委員会／笠間市／笠間市教育委員会／茨城放送／朝日新聞水戸総局／茨城新聞社／共同通信社水戸支局／産経新聞社水戸支局／東京新聞水戸支局／毎日新聞社水戸支局／読売新聞水戸支局／東日本旅客鉄道株式会社水戸支社

■ 交通案内

◆ JR利用

・常磐線友部駅北口(9:50/10:50/11:50発)より、かさま観光周遊バスで約15分
「日動美術館入口」下車徒歩1分
(1回100円／1日フリー乗車券300円)
・水戸線笠間駅より徒歩約30分、レンタサイクル約10分、市内循環バスで約5分、「日動美術館入口」下車徒歩2分
かさま観光周遊バス、またはレンタサイクルの利用が便利です。

◆ 自動車利用

・常磐道友部JCT経由、北関東道友部ICより
国道355号線経由約6km
・東北道栃木都賀JCT経由、北関東道笠間西ICより
国道50号線経由約8km

以上